

シュローダー・スナップショット

マルチアセット・ビュー グローバル市場見通し

2024年9月

見通しの表示： ● 強気 ● 中立 ● 弱気 矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ

株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）

堅調なファンダメンタルズを受けて、引き続き強気の見通しを維持しています。米国企業については、利益見通しに関する上方修正が続いています。

米国のレイオフは低水準にあるほか、堅調な米国消費動向等を踏まえ、運用チームでは「ソフトランディング」を想定しています。市場の利下げ期待は過度であると考え、弱気の見通しを維持しています。

クレジット市場におけるインプライド・ボラティリティは高止まりしており、経済を巡る不確実性が高まっていることを示唆しています。ただし、魅力的な利回り水準を踏まえ、中立の見通しを維持しています。

全体として中立の見通しを維持しています。中国を巡るセンチメントの悪化や軟調な製造業関連指標を考慮しています。ただし、金に対する見方は強気を維持しています。

資産クラス	分類	見通し
株式	米国	米国大統領選挙が近づくにつれ、大統領選を巡る不確実性が和らぐと考えるほか、米連邦準備制度理事会（FRB）による利下げが支援材料になるとみて、強気の見通しを維持しています。
	欧州	一部の製造業関連指標は軟調な結果が続いていますが、インフレ減速を受けて、欧州中央銀行（ECB）に対する利下げ期待を強めたため、見通しを中立に引き上げました。
	日本	企業収益やマクロファンダメンタルズは改善していますが、リスク・リターン特性が魅力的でないと判断し、中立の見通しを維持しています。
	アジア（除く日本）	軟調な製造業関連指標を受け、台湾や韓国などの輸出産業に対する需要減速を警戒し、見通しを中立に引き下げました。中国については、輸出業に一部改善が見られるものの、経済減速基調が続くとみて、中立の見通しを維持しています。
	新興国	製造業の景気サイクルを警戒し、見通しを中立に引き下げました。また、新興国株式については、中国株式の回復が不可欠であると考えます。

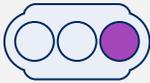
最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第90号

加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

Schroders

資産クラス	分類	見通し
国債	米国	 運用チームが想定する「ソフトランディング」を踏まえると米国債は割高な水準にあり、特にフロントエンドを中心に割高であると考え、弱気の見通しを維持しています。
	欧州 (ドイツ国債)	 軟調な製造業関連指標はECBの利下げをサポートする可能性があります。サービスインフレは粘着性を示しているため、中立の見通しを維持しています。
	新興国 (現地通貨建て)	 魅力的なバリュエーションを提供しているようにみえますが、スプレッドの拡大は財政懸念がある少数の国によるものです。これらの国によるボラティリティや個別リスクを懸念し、中立の見通しを維持しています。
	米国インフレ 連動債	 インフレ圧力は緩和が続いていますが、経済成長や消費が堅調であることを踏まえ、中立の見通しを維持しています。
投資適格 社債	米国	 バリュエーションの割高感は緩和しているほか、豊富な流動性を評価する一方、マクロ経済を巡る不確実性を懸念し、中立の見通しを維持しています。
	欧州	 米国投資適格社債と比べて優れたリスク・リターン特性を提供しているとみています。ただし、軟調な欧州経済指標を踏まえ、中立の見通しとしています。
	新興国 (米ドル建て)	 良好なファンダメンタルズやテクニカル要因が支援材料になる可能性はあるものの、バリュエーションの観点で魅力的ではないとみて、中立の見通しを維持しています。
ハイイールド 社債	米国	 バリュエーションの割高感は緩和しましたが、割安な水準ではないと考えます。「満期の壁」は上手くコントロールされていますが、企業ファンダメンタルズは悪化基調にあるため、中立の見通しを維持しています。
	欧州	 バリュエーションは魅力的であると考えますが、マクロ経済に対する懸念が高まりつつあるため、中立の姿勢を維持しています。

最終ページの「本資料に関するご注意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

資産クラス	分類	見通し
コモディティ (商品先物)	エネルギー	 中国からの需要は減退していますが、OPECが減産縮小の延期を発表したことを受けて、中立の見通しを維持しています。
	金	 実質金利が低下することが予想される中、強気の見通しを維持しています。また、テクニカル要因を踏まえると、下落余地は限定的であるとみられています。
	産業用金属	 軟調な中国経済指標が足枷になっています。在庫量は減少に向かう兆候も見られましたが、軟調な経済情勢を踏まえ、中立の見通しを維持しています。

資産クラス	分類	見通し
通貨	米ドル	 FRBの50bp利下げを受けて、見通しを中立に引き下げました。
	ユーロ	 欧州の主要経済指標は軟調な内容となりましたが、米国との金利差が縮小したことを受けて、見通しを中立に引き上げました。
	日本円	 その他先進国においては中央銀行が利下げサイクルに踏み切る中、日本銀行は金融引き締めのスタンスをとっていることを受けて、見通しを強気に引き上げました。

本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレージョン・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

【本資料に関するご留意事項】 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダー-plcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。



創業から200年超、日本に根ざして50年。
 卓越した資産運用サービスをお届けするため、
 私たちの視線が向かうのは、いつもひとつ先の未来。
 今また新たな投資機会の発掘に向け、
 シュローダーは動き出しています。